

「ゆびけん」でモモの収穫日を予測すると、 正品率が向上し、収穫時間が短縮されます



図1 果実硬度共鳴測定器「ゆびけん」
(生物振動研究所製)と測定の様子

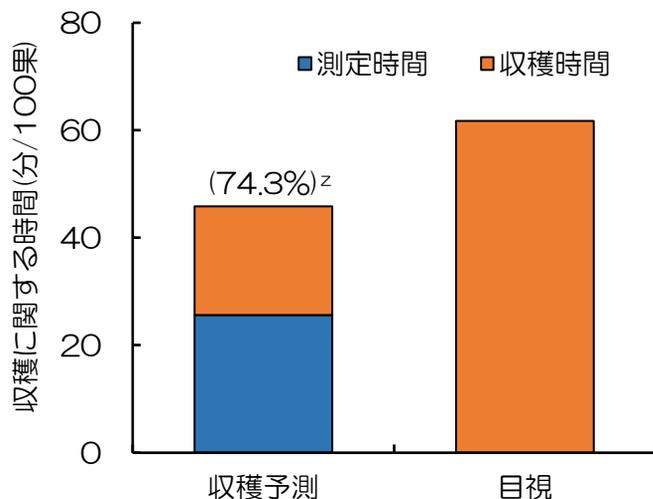


図2 収穫判断方法の違いが「白露®」の収穫に関する
時間に及ぼす影響

^z 収穫予測区は、果実硬度共鳴測定器で収穫予定日を算出し、果実袋に記入する時間を含む

開発のねらい

モモの収穫は、果実ごとに袋を開いて果皮色の変化から熟度を目視で判断する必要があるため、正確な判断には経験が必要不可欠です。また、未熟と判断した場合は袋を再び閉じなければならないため、多大な時間と労力を要します。そこで、果実硬度共鳴測定器「ゆびけん」を用いて収穫日を予測し、熟度判定の精度や作業時間の短縮効果を明らかにしました。

新技術の概要

- 「ゆびけん」で果実の硬さを果実袋の上から測定し、軟化曲線を用いて収穫日を予測します（図1）。
- 収穫日を予測して収穫すると、目視で収穫した場合と比べて未熟や過熟の果実が少なくなり、正品率が約10%高まります（データ省略）。
- 「ゆびけん」で測定する時間を含めても、収穫に関する時間が目視で収穫する場合と比べて約25%短縮されます（図2）。

活用場面

「ゆびけん」で収穫日を予測して収穫すると、正品率が向上し、収穫に関する時間も短縮されるため、所得向上や各農家の栽培面積の拡大が見込まれます。現在、「白鳳」、「清水白桃」、「おかやま夢白桃」、「白皇®」及び「白露®」で使用することができ、今後も適用できる品種を増やす計画です。